別添１

事前評価用チェックシート（参考例）（自然環境整備計画（国立公園整備事業））

都道府県名	秋田県	計画期間	令和 2　年度～令和 4　年度
個別地域名	十和田地域	評価年度	令和 7　年度

１　事業の必要性		チェック欄
★（１）	事業区域の自然環境、施設整備の現状及び利用の動向等から、事業を実施する必要が認められる。	○
★（２）	上位計画との整合性が確保されている。	○
★（３）	同じ国立公園の直轄事業との整合性が確保されている。	○
★（４）	自然環境整備交付金取扱要領の１に定める交付対象事業等である。	○

２　事業の有効性		チェック欄
★（１）	公園等の利用	
	①　公園利用者の安全確保のための老朽化施設の整備である。	○
	②　訪日外国人の快適な公園利用の整備である。	
	③　利用環境の向上、適正な利用の誘導のための整備である。	○
	④　質の高い、魅力ある景観づくりのための整備である。	
	⑤　全ての人が楽しめるようユニバーサルデザイン等を考慮している。	
	⑥　国際的な保護地を活用するための整備である。	
（２）	公園等の保護	
	①　生物多様性の確保や自然環境の保全等のための整備である。	
	②　地域に固有の風景を保護するための整備である。	

３　目標と指標の妥当性・実現可能性		チェック欄
★（１）	目標と指標の妥当性	
	①　目標に対応した適切な指標が設定されている。	○
	②　指標及び数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
（２）	経済性	
	長寿命化やコストの削減に努めるなど経済性に配慮している。	
（３）	自然環境等への配慮	
	自然環境や地球環境に対し、以下のような配慮をした事業である。 ・整備による風景への影響を最小限とするよう配慮 ・省エネの推進や再生エネルギーの活用 ・地域材等の天然材料等、生態系に配慮した資材の利用 ・外来種の持ち込み対策等に対する施工上の配慮 ・木材を利用する場合に間伐材を使用 ・廃棄物が発生する場合にリサイクル等を推進	
★（４）	実現可能性	
	①　関係機関や地域との合意が形成されている。	○
	②　整備完了後適切に維持管理が実施される予定である。	○
	③　事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	

注　:★は必須項目

別添１

事前評価用チェックシート（参考例）（自然環境整備計画（国立公園整備事業））

都道府県名	秋田県	計画期間	令和 2　年度～令和 6　年度
個別地域名	八幡平地域	評価年度	令和 7　年度

		チェック欄
１　事業の必要性		
★（１）	事業区域の自然環境、施設整備の現状及び利用の動向等から、事業を実施する必要が認められる。	○
★（２）	上位計画との整合性が確保されている。	○
★（３）	同じ国立公園の直轄事業との整合性が確保されている。	○
★（４）	自然環境整備交付金取扱要領の１に定める交付対象事業等である。	○
２　事業の有効性		チェック欄
★（１）公園等の利用		
	①　公園利用者の安全確保のための老朽化施設の整備である。	○
	②　訪日外国人の快適な公園利用の整備である。	○
	③　利用環境の向上、適正な利用の誘導のための整備である。	
	④　質の高い、魅力ある景観づくりのための整備である。	
	⑤　全ての人が楽しめるようユニバーサルデザイン等を考慮している。	
	⑥　国際的な保護地を活用するための整備である。	
（２）公園等の保護		
	①　生物多様性の確保や自然環境の保全等のための整備である。	
	②　地域に固有の風景を保護するための整備である。	
３　目標と指標の妥当性・実現可能性		チェック欄
★（１）目標と指標の妥当性		
	①　目標に対応した適切な指標が設定されている。	○
	②　指標及び数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
（２）経済性		
	長寿命化やコストの削減に努めるなど経済性に配慮している。	
（３）自然環境等への配慮		
	自然環境や地球環境に対し、以下のような配慮をした事業である。 ・整備による風景への影響を最小限とするよう配慮 ・省エネの推進や再生エネルギーの活用 ・地域材等の天然材料等、生態系に配慮した資材の利用 ・外来種の持ち込み対策等に対する施工上の配慮 ・木材を利用する場合に間伐材を使用 ・廃棄物が発生する場合にリサイクル等を推進	
★（４）実現可能性		
	①　関係機関や地域との合意が形成されている。	○
	②　整備完了後適切に維持管理が実施される予定である。	○
	③　事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

注　:★は必須項目

別添１

事前評価用チェックシート（参考例）（自然環境整備計画（国立公園整備事業））

都道府県名	秋田県	計画期間	令和 3　年度～令和 6　年度
個別地域名	秋田駒ヶ岳地域	評価年度	令和 7　年度

１　事業の必要性		チェック欄
★（１）	事業区域の自然環境、施設整備の現状及び利用の動向等から、事業を実施する必要が認められる。	○
★（２）	上位計画との整合性が確保されている。	○
★（３）	同じ国立公園の直轄事業との整合性が確保されている。	○
★（４）	自然環境整備交付金取扱要領の１に定める交付対象事業等である。	○

２　事業の有効性		チェック欄
★（１）公園等の利用		
	①　公園利用者の安全確保のための老朽化施設の整備である。	○
	②　訪日外国人の快適な公園利用の整備である。	○
	③　利用環境の向上、適正な利用の誘導のための整備である。	○
	④　質の高い、魅力ある景観づくりのための整備である。	
	⑤　全ての人が楽しめるようユニバーサルデザイン等を考慮している。	
	⑥　国際的な保護地を活用するための整備である。	
（２）公園等の保護		
	①　生物多様性の確保や自然環境の保全等のための整備である。	
	②　地域に固有の風景を保護するための整備である。	

３　目標と指標の妥当性・実現可能性		チェック欄
★（１）目標と指標の妥当性		
	①　目標に対応した適切な指標が設定されている。	○
	②　指標及び数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
（２）経済性		
	長寿命化やコストの削減に努めるなど経済性に配慮している。	
（３）自然環境等への配慮		
	自然環境や地球環境に対し、以下のような配慮をした事業である。 ・整備による風景への影響を最小限とするよう配慮 ・省エネの推進や再生エネルギーの活用 ・地域材等の天然材料等、生態系に配慮した資材の利用 ・外来種の持ち込み対策等に対する施工上の配慮 ・木材を利用する場合に間伐材を使用 ・廃棄物が発生する場合にリサイクル等を推進	
★（４）実現可能性		
	①　関係機関や地域との合意が形成されている。	○
	②　整備完了後適切に維持管理が実施される予定である。	○
	③　事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

注　:★は必須項目